

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

▼ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		「明るく楽しく地域とともに歩むグループホーム」という基本理念を掲げている。また、「明るく」「楽しく」「地域とともに歩む」とは、それぞれどういうことなのかも明示している。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		基本理念を事務所内や玄関に掲示して、職員が何時でも理念が目に触れるようにしており、日々、理念の実践に努めている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		基本理念を事務所内や玄関に掲示して、家族やボランティア等の来訪者が目に付くようにしているほか、家族宛での広報誌にも基本理念を掲載して送付し、理念を理解してもらえよう努めている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		近所の方がボランティアに来て下さったり、向かいの家の人からお花のプレゼントを頂いたりと少しずつだが隣近所とのつきあいができてきている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		自治会や老人会についての情報を集め、少人数からでもグループホームへ招待することから始めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実習生を受け入れて人材育成に努めているが、地域の高齢者の暮らしに役立つ取り組みは現在行っていない。		地域包括支援センター等と協働して、地域の高齢者やその家族等をグループホームへ招待し、グループホームの啓発活動を行っていききたい。地域ネットワーク会議に出席し、グループホームのアピールをしている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	利用者によりよい生活を送ってもらうために日々考えて、改善に取り組んでいる。自己評価をすることで、何が足りないのかを再認識させられる。		外部評価結果を職員全体会議にて再確認している。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	毎回様々な意見があり、職員だけでは気付かない貴重な意見も多く出ている。会議後は議事録を作成して、全職員が周知できるようにしている。		議事録の全員周知後に、意見についてどう実践していくのか議論する場を設けていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とは、電話での連絡・相談がほとんどである。		市の職員にグループホームへ足を運んでもらえる機会づくりを考えていきたい。また、グループホーム運営での困難や課題について、必要な場合は市と協働して解決を図っていききたい。生活保護担当ケースワーカーとは、より連携を取って、グループホームへ足を運んでもらう働き掛けを行っていききたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今現在、該当者がいないため、個人で学習している程度である。		今後、権利擁護研修に参加していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修に参加したり、情報誌やアンケート調査等によって自分達の介護を振り返り、虐待防止に努めている。特に、心理的虐待には十分注意しており、日々、言葉遣いや気配りには職員同士が声を掛け合って気を付けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、解約時は、十分な説明や読み合わせをし、ご家族の理解と納得を図っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の会話や触れ合いの中で、利用者の声を吸い上げるように心掛けている。意見や不満は、管理者、職員間で共有し、改善に努めている。契約書の内容に苦情相談窓口の開設をしている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、出納帳や写真を貼付した広報誌を送付して、金銭や生活の様子を知らせている。普段は、管理者、居室担当者が中心に家族と電話連絡を取り、必要事項や特変事項を報告している。また、面会時にも、近況等を報告するようにしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年に一度、家族が日頃の疑問や意見等を表せる機会として家族懇談会を開いている。また、電話、面会時において、家族の意見や要望を伺うよう心掛けている。</p>	<p>家族が、より意見を述べやすい環境の工夫を考えていきたい。家族が利用者面会時に職員と短時間でも話す機会ができるように配慮している。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月、全体会議と勉強会を開き、職員の意見交換、議論の場としている。内容は議事録を作成して運営者へ報告しているが、必要な時は、管理者が別の会議で運営者と議論している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>人員に余裕が無く、柔軟にはいかないが、利用者、家族の変化、要望には精一杯の対応をしている。</p>	<p>4月より常勤1名の増となるので、勤務の状況により柔軟な対応は可能となる。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内異動は最小限であるが、1名の離職はあり、基準は満たすよう人員確保を常に運営者等に依頼している。</p>	<p>運営者に人員確保に求人広告等の利用をして、随時努力している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者等から研修の告知はあるものの、人員に余裕が無く、今年度ほとんど研修に参加できていない状況である。研修に参加したときは、より知識を確かなものにするために研修を振り返って報告書を作成し、運営者等へ提出している。		4月から人材確保ができるので、随時参加する予定になっている。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域外ではあるが、個人単位で同業者とのネットワークをつくり、情報交換や相談をして、サービスの質の向上に役立っているが、運営者の取り組みはグループホームに反映されず、地域内での交流はできていない。		管理者、職員も同業者が集まる研修や勉強会へ参加して交流をつくりたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	グループホーム内の美化には大変力を入れており、職員が気持ち良く働ける環境づくり、またはその指導を徹底している。		在宅サービス課長が定期的にグループホームの会議に出席している。毎日の課長の訪問の時には、職員の声やストレスを聞いてもらいたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者がグループホームに姿を見せることはあまりないが、管理者や上層部を通して職員個々の状況は把握している。また、それに応じた指導を行っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用相談や申し込みは、家族がほぼ主体となっている。可能な限り本人には来苑してもらい、実際に対面して話を聴く。来苑や訪問が困難な場合には、家族や担当ケアマネジャーからの情報把握に努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族とは、十分な話し合いができる時間を設け、ご家族の思いに耳を傾ける一方で、利用となった場合において、グループホームで提供可能なサービス内容の範囲や家族の協力依頼についてもしっかりと伝えるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、本人や家族の主訴を正確に理解、把握できるよう傾聴の姿勢を心掛けて、その上でどのようなサービスが必要なのかを考え対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホーム利用について、本人に納得してもらうよう家族に協力を仰いだり、事前にグループホームに見学に来てもらい、利用者の輪に入って少しの時間を過ごすことから始めたりと、ケースに応じて対応を工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共に生活する関係としてお互いに助け合うことを基本とし、利用者小さなことでも相談したり、教えてもらったりする等、利用者から常に学ぶ姿勢で日々の生活を送っている。		自分でできるという意識が強いため介助を拒否される利用者に対して、本人を尊重し、お互いが気持ち良く生活できるよう言動にもっと工夫をしていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族にしかできない支援があること、家族の協力が利用者の快適な生活には必要不可欠なことを家族に伝えている。それぞれの家族が置かれている状況をきちんと理解した上で、お互いに協力しながら利用者を支えるように努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者、家族、それぞれから話をよく聴いて、お互いがどのような存在であったのかの把握から始めている。両者が疎遠とならないよう、家族には面会、外出の他、忙しい時には電話だけでもお願いしたり、利用者には日頃から家族の話に触れてみたりして、利用者との家族のより良い関係の継続に努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	写真や手紙、広告等を活用しながら、昔よく行っていた店や馴染みであった人の話を聴いたり、思い出を語ってもらったりして、いつまでも記憶に残るよう働き掛けている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	常に利用者間の関係把握に努め、相性を考慮して座席を決めている。そして生活の中では利用者同士が助け合うことが、日常的にある。孤立し易い方やトラブルになり易い関係の方などは、特に気を配って職員が介入するようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了となった方の家族を継続してボランティアとして招き、一緒に生活の手伝いをしてもらう等、今までの関係、つきあいを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人に直接希望や意向など各自の意見を出してもらったり、日々の利用者の言動を観察して把握に努めている。利用者からが困難な場合は、家族と相談しながら工夫して支援している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族のほか、面会に来られる友人や関係者からも可能な時は情報を収集して、生活歴等の把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの一日の過ごし方は概ね把握ができていますが、生活支援としては、利用者の有する残存能力の引き出しが上手にできていないように思う。		利用者自らが意思を持ってやりたいと思えることが一日の中で一つでも見つかるよう、工夫して支援をしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の情報収集には十分な時間を費やし、本人、家族の意向を取り入れて介護計画を作成している。		居室担当者と計画作成担当者間での話し合いの場を持つ予定である。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	生活の中で利用者に変化があった場合は、本人、ご家族と相談のもとすぐに必要な対応をし、介護計画作成にも時間が掛からぬよう努力している。		介護計画の重要性を今一度確認し、適切な時期に見直しを行って、利用者の現状と介護計画がしっかりとかみ合う介護計画の作成を徹底していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や特記事項等を個人記録やスタッフノートに記入して、それを出勤時に確認することで情報を共有している。個人記録には、その人の言った言葉を記録することを心掛け、その人らしさを共有する手段としている。		同上。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が家族宅へ外泊に出掛けたり、外出に行ったりして、家族と一緒に過ごす時間をたくさん設けてもらえるように働きかけを行っている一方で、安全に外泊等を取り進めるために必要な調整にも努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近所の美容室を利用したり、地域の大学生ボランティアとの語りの場があったりと、少しずつ利用者の生活に対応した地域資源の活用がなされ始めている。		特に、利用者の大好きな散歩等の外出の機会を増やせるよう、より生活に密着したボランティアを募ってきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設の居宅介護支援事業所のケアマネジャーに、必要に応じて相談し、協力を得ている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	併設の地域包括支援センター職員には運営推進会議を通して意見、要望をもらっている。また、実習生の受け入れ、調整を連携して行っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関はあるが、あくまでも本人や家族の希望のもと主治医を定めてもらい、定期的に受診をしている。その際、付き添う家族には、利用者の生活の様子等を記した資料やバイタル表を渡し、Dr.への報告に役立ててもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医ではないが、協力医療機関の神経内科医に受診をして相談をしている。相談は、受診に付き添う家族が主であり、職員が本人の状況を記入した書類を家族に渡したり、話したりしている。		認知症の専門医の研修参加に心掛けていきたい。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の看護師に必要に応じて相談することが可能であり、利用者の健康面での変化等について助言をもらっている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院関係者との電話連絡、サマリー、家族との情報交換等で利用者の状況を掴み、退院支援に結び付けている。		入院中に直接病院へ伺い、病院関係者と会議等を行って利用者の状況把握に努め、退院後の支援に役立てていきたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時より、ここが終の住処ではないことを家族に伝えてい。重度化、終末期においては本人、家族にとって一番良い方向を考え、病院施設等につなげることを支援している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホームでのサービス提供の限界を家族には伝え、できる限りの最大限の支援を行うように努めているが、実際には、どの程度までなら利用継続可能かという基準は設けておらず、臨機応変に話し合いながら対応している。		
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居住に移り住む際は、まずは利用者の安全な状態を保つことを目指している。また、別の居住への情報提供にはベストを尽くしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者のプライバシーに関わる話は、他人の前ではせず、本人とだけするようにしている。また、日々の声掛けでおかしいと感じる時は注意し合うようにしている。記録等の個人情報については、第三者の目に触れることがないように保管場所を徹底管理している。</p>	<p>声掛けについて、ただ丁寧だから良いというわけではなく、その中に思う心も大切にしていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>何かをする際は、利用者に意見を聴き、意向を尊重して行うように努めている。また、利用者のできること、わかることを奪わないように心掛けて支援をしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事や入浴など、人員の都合上やむを得ず職員側の決まりで過ごしてもらうこともあるが、基本はその人その人のペースで一日を過ごしてもらうことを大切にしている。</p>	<p>本人の希望とその利用者のためにこうした方がよいと言う職員の思いが異なる場合があるが、日々一番良い選択ができるようにしていきたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>利用者の着たいものを尊重している。本人が希望するものや必要なものがあれば、家族に伝えるようにしている。理美容については、本人の望む髪型やパーマ等を尊重するようにしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>その方の有する力や好みを見極めて、個別に準備や片付けの支援を行っている。食事は、職員一名が利用者と一緒に、会話をしながら、TVを見ながら、音楽を聴きながらゆったりと食べている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>たばこ、青汁、養命酒、漢方、飴など提供可能な範囲内で、個人の好みのものを用意し提供している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>個々の排泄パターンや力を理解し、その人に適した声掛けやタイミング等も試行錯誤しながら排泄介助に入り、清潔を保つ支援に努めている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>全利用者の安全確保を最優先としており、限られた時間内ではあるが、本人の状況と体調を職員が判断した入浴となっている。入浴の時は本人の了解を必ずもらい、その上で入浴を少しでも楽しんでもらえるように工夫をしている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>起床、就寝時間は特に定めず、その方の習慣で休んでもらうことを基本としている。その他、昼寝や湯たんぼ等を利用して気持ち良く夜に眠れるよう支援している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者の得意なこと、好きなことを情報収集して生活の中に取り入れ、そこに携わってもらうことで利用者の楽しみ、喜びとなるよう支援を工夫している。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理が可能な方には所持してもらい、買いたいものがあるときは職員と一緒に自動販売機でジュースを購入するなどの支援を行っている。</p>		<p>お金を所持できなくても、お店で職員の代わりに店員へお金を渡すことをしてもらおう等、できる力の中で社会に触れる機会をつくっていききたい。</p>
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>気候や健康面、また人員の都合もあり、なかなか散歩等の外出が行えずにいるが、玄関先の庭では外気浴を行い、少しでも外気に触れる時間をつくってリフレッシュしている。</p>		<p>家族やボランティアの協力を得て、外出する機会を増やしていくとともに、職員の業務に幅を持たせ、外出のための時間を職員全員が連携してつくっていききたい。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>家族には、できるだけ利用者を外へ連れ出してもらえよう願いをしており、外食やお墓参り等に出掛けている。また、年間行事の中には、ぶどう狩りや花見、紅葉狩りなどの企画があり、外出して利用者楽しんでもらっている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	あまり本人自らのケースはないが、家族や知人からの電話は、子機にて対応するなど本人に取り次ぎ易いよう工夫をしている。年賀状や暑中見舞いなども本人の気分や能力に応じて支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	玄関には鍵を掛けず、庭には花や植物を並べて、いつでも気軽に訪問できる雰囲気をつくっている。訪問者をお断りすることなく、オープンに構えるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯を除いては、玄関に鍵を掛けることはしていない。利用者が外出しそうな時には、無理に戻すのではなく、いろいろな話題を出したりして、さりげなく中へ誘導することができるような声掛けを心掛けている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間で声を掛け合って連携を取り、利用者の一人ひとりの様子を常に把握することに努めている。また、職員が死角に入らないよう注意して動いている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全て一律に禁止とせず、個々の力によって、危険と判断したものについては、事務所で預かるまたは搬入を断るようになっている。事務所で預かる場合は、預かっている旨を知らせるメッセージを居室に置いたりして本人の不安を取り除くことに努めている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの現状把握に努め、そこから起こり得ると考えられる事柄は声に出して共有し、対処法を考えて事故を未然に防ぐようにしている。事故発生時には、報告書を作成して要因や対策を考え記録し、再発防止に役立てている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の変化により、その時その場で仮定し対応方法を話し合っているが、応急手当や初期対応については、マニュアルの作成し、訓練ではないが常に職員間で話し合っている。		場面によって応急処置の仕方は異なるので、状況に応じて手当てができるように日々研鑽していきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に二度、地域の消防署員の指導による防災訓練があり、毎回、利用者、職員の代表者が訓練に参加して緊急時の避難方法や注意事項を学んでいる。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者それぞれに起こり得るリスクについては、その都度はっきりと家族に説明して伝え、その上で家族の意向をお聞きし、対応策を決めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行っている。異常時には再検や様子観察を強化して異変の早期発見に努め、必要に応じて家族へ協力を依頼し、迅速かつ適切な対応に結び付けている。利用者の体調変化には全職員が常に気を配っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬中の薬の情報は、薬局からもらう薬の資料を個人ファイルに綴じて用法や用量、副作用等を確認している		その方の今飲んでいる薬がしっかりとわかるよう、受診毎に個人ファイルの薬の資料を更新していく。職員は、受診報告書の他に薬の資料にも必ず目を通すようにしていく。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日頃から水分補給や体を動かしてもらうことに努めている。排便状況の確認には力を入れ、排便パターンの把握に努めて、便秘の方には青汁、ヨーグルト接種など食材の工夫をしたり、医療につなげたりして便秘予防に取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝、昼食後は洗浄の声掛けを行い、夕食後は一人ひとり対応してうがいや義歯の洗浄を職員の見守りや一部介助のもと行っている。また、起床時には食堂でうがいを実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは併設の栄養課の献立作成により確保している。食事量や水分量は、各担当が確認してパソコンに入力し、記録に残している。不足している方には、補食等を用意して対応している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防のため、職員、面会者、外出者のマスク着用、うがい、手洗いを徹底しており、体調不良者等は面会の制限等もしている。また、普段から、居室内や廊下手すり等の消毒も行っている。ノロウイルスについては、勉強会を開いて、発生した時の対処法を考えている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週に一度冷蔵庫掃除を行い、期限や中身をチェックしている。また、調理品については一日経ったものは処分することとしている。食器や調理器具等は、週に一度食器消毒を行い、台所周りや布巾、タオルなどは毎日消毒をして衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先の庭には、花や植物を並べ、ベンチも多く設置して、利用者や家族、面会者がゆったりとくつろげる空間としている。また、庭は通りに面しており、通行人と自然に触れ合えるようになっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、できる限り利用者に不快感がないように努め、その時候にあった飾りや利用者の作品、人形などを置いて温かい空間づくりを心掛けている。また、音楽や照明、清潔にも気を配って支援している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイルームや食堂、廊下、庭などにはイスを多く設置して、みんなが自由にその時の気分で、一人で過ごしたり、誰かと会話を楽しんだりする空間をつくっている。家具の配置には安全面を考慮して、時々移動をするなど工夫をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談して、必要と感ずるものは家族に搬入を依頼している。家族には、できる限り本人の使い慣れた愛用物を搬入してもらうよう話をしているが、新しい物を用意される家族が多いのが現状である。		本人や家族と相談して、より本人の好みの部屋作りに取り組んでいきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房の温度設定には、職員全員が気を配り、外気温の差が大きくなるように努めている。また、冬は加湿器を使用し乾燥を防止している。居室やトイレの気になるにおいには、消臭剤設置やまめに掃除をしてみんなが気分良く過ごせるように心掛けている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等、既存の設備以外に、利用者の状況から判断して危険と感じ見直しが必要なことには、併設の管理課にも協力を依頼し、安全な居住環境確保に努めている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の不安と感ずる事柄を理解し、必要に応じて居室やトイレ、廊下などに張り紙を貼付し、本人が混乱することなく生活が送れるよう環境設備に工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには洗濯物干しを個別に用意し、利用者が手洗いたものを干しに出たり、布団を干したりして活用している。玄関先の庭にはたくさん花や植物もあり、利用者が手入れをすることもあって楽しめる空間になっている。		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように
		数日に1回程度
		たまに
		ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている
		少しずつ増えている
		あまり増えていない
		全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が
		職員の2/3くらいが
		職員の1/3くらいが
		ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が
		家族等の2/3くらいが
		家族等の1/3くらいが
		ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者の人間関係の障害が起きないように、常に気配りある支援に努めている。
- ・毎日利用者が一緒に歌を歌うことで利用者同士の交流が生まれ、人間関係が育まれると同時に肺活量の維持にもつながっている。
- ・利用者一人ひとりの気持ちに寄り添ってその人の不安にできるだけ早く気づき、家族の協力を得て、利用者に安心した生活を送ってもらえるよう努めている。
- ・利用者の誕生日会には、地域の菓子店にケーキや特別なおやつの配達を依頼して、利用者全員で盛大に祝っている。
- ・職員それぞれが家族とはまめに連絡をとり、お互いに伝えたいことをはっきりと言える関係づくりに努めている。
- ・認知症であっても一人の人として接することを心掛け、人として、してはいけないことは本人にしっかりと伝えて向き合うようにしている。
- ・ボランティアの協力も得て、折り紙教室や生け花、アコーディオンの会等、クループ活動にも力を入れている。
- ・井戸端会議のような雑談を取り入れて仲間づくりや思いやりの心に触れ、利用者が安心できる日常生活の支援をチーム全体で心掛けている。